

平成 20 年 3 月 21 日

各 位

東京都千代田区丸の内二丁目 2 番 3 号  
古河機械金属株式会社  
代表取締役社長 相馬信義  
(コード番号 5715 東証・大証 1 部)  
お問い合わせ先  
執行役員企画推進室長 中川 敏一  
電話 03(3212)6570

## 古河機械金属グループ「中期経営計画（2008～2010 年度）」について

当社（本社：東京都千代田区、社長：相馬信義）は、このたび 2008 年 4 月からスタートする「中期経営計画（2008～2010 年度）～成長への挑戦～」を策定しましたのでお知らせいたします。

当社グループは、現中期経営計画（2005～2007 年度）において 2005 年度からスタートした分社によるグループ経営体制の下に事業基盤の構築を進め、各事業の価値最大化を追求し、グループ全体の利益伸長を通じた財務体質の強化を最重点目標として、諸施策に取り組んでまいりました。

その結果、折からの金属事業の好調に加え、機械事業の積極的な海外展開が目論みに沿って大きく収益に寄与するなど、グループ全体の収益が拡大し、財務体質を大幅に改善することができました。

新中期経営計画につきましては、次の 3 ヶ年を、内外の変化の激しい経済環境の中で更に各事業間の再構築を進め、次世代に向け一層の成長を促進する期間と位置づけて、「変革」「創造」「共存」という当社グループの企業理念の下、『成長への挑戦』を合言葉に、改めてメーカーとしての原点に立ち、ハイレベルの生産・販売・サービス体制を目指す「本格的なモノづくり・仕組みづくり」を追求してまいります。そのために機械事業製品の品質・コスト競争力アップ、生産効率向上と海外展開の推進、更には将来的に飛躍的な需要の拡大が期待できる次世代半導体材料を始めとした新製品の開発と市場投入等の成果を挙げることを重点目標として計画いたしました。

### 1. 業績目標（連結）

	2007 年度予想(※)	2010 年度計画
売上高	2, 140 億円	2, 300 億円
営業利益	143 億円	150 億円
当期純利益	77 億円	80 億円

(※平成 19 年 11 月 7 日発表)

2010年度計画は、2007年度予想に対し、金属事業で買鉱条件の大幅な悪化等による減益（△41億円）はありますが、機械事業の生産方式改革及び海外展開拡大による増益（35億円）と電子事業の新製品市場投入による増益（6億円）を図ります。

この3カ年で、機械事業において、年間100億円以上の営業利益を確実に計上できる収益基盤を確立いたします。

## 2. 基本方針

－『成長への挑戦』－

- ① 機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進
- ② 新製品の事業化に向けた開発の促進

## 3. 重点施策

### ① 本格的なモノづくり

- ・ グローバル競争に勝ち抜くために、トヨタ生産方式の導入等の生産システム改革により、格段の「生産性向上、コストダウン、品質の追求」を図るとともに、増産のための効果的な設備投資を行います。
- ・ 海外生産子会社を活用して最適な生産・調達体制を構築することにより、コストダウンを目指します。また、国内機械工場の組織を再編成し、技術の融合と生産の効率化による収益力向上を実現します。
- ・ 低燃費・低騒音クレーン、超低騒音ブレーカ、気流式微粉末製造装置、新型電気集じん装置などの環境配慮型製品、高付加価値製品の拡充を図る他、新開発製品の市場投入を促進します。

<設備投資計画 2008～2010年度(3カ年累計)180億円 [05～07年度実績 120億円]>

### ② 機械事業の海外展開推進

[ロックドリル]

- ・ 北米、アジア、ヨーロッパにそれぞれエリア統括会社を設立し、海外販売網を強化します。
- ・ 安定市場（アメリカ、ヨーロッパ等）、急成長市場（中近東、中国等）における拡販を進めるとともに新規市場（インド、ロシア、その他資源国等）を開拓します。
- ・ 従前の土木建設、インフラ整備向け中心に加え、鉱山向け大型ロックドリル製品の拡販体制を強化します。
- ・ 優秀な現地の人材の雇用を促進し、組織力を強化します。

<5年後（2012年度）のブレーカ及びロックドリルの目標世界シェア40%（2007年度見込み30%）>

[ユニック]

- ・ 世界5極（北米、ヨーロッパ、ロシア・CIS諸国、アジア・オセアニア、中近東）を中心とした海外販売拠点を拡充・強化します。
- ・ 国際展示会への出展を始め販売促進活動を強化し、折曲げ式クレーン主流の各海外地域のユーザーに対し、操作性に優れたユニッククレーンの認知度向上を図ります。

<海外売上高比率 2010年度（目標）40%（2007年度見込み20%）>

〔産業機械〕

- ・ グループ内海外展開力を活用しながら、スラリーポンプ、クラッシャー、ブリケットティングマシン（造粒機）などを中心に、海外市場開拓を図ります。

### ③ 次世代半導体材料等の新製品の開発と市場投入

〔GaN（窒化ガリウム）製品〕

- ・ 青紫レーザーダイオード、白色発光ダイオード等に用いられる GaN 基板の量産化と市場投入及びより高付加価値製品である電子デバイス用 GaN エピ基板の開発を行います。

〔LuAG（ルテチウムアルミニウムガーネット）結晶〕

- ・ 次世代 PET(※1)用及び乳がん検査装置用並びに資源探査用シンチレータ(※2)結晶等として期待されている LuAG 結晶の開発を行います。

※1 PET (Positron Emission Tomography の略語、陽電子放射断層撮像)

※2 シンチレータ（入射した放射線のエネルギーを利用し、発光する材料）

### ④ 成長への本格的な仕組みづくり

- ・ ナイトライド事業室の新設等研究開発体制を再構築し、次世代戦略商品の市場投入に向け、開発力の強化と事業化を加速します。
- ・ 製品毎の縦割りの生産体制を見直し、各工場の得意分野を活用した連携体制を構築するなど、グループ内の最適な生産体制を確立します。
- ・ 海外要員、技術者、研究者を始めとした人材の確保・育成並びに適正配置を行います。
- ・ 内部統制システムの更なる整備・運用を図るとともに、企業リスク全般のマネジメント力を強化してまいります。

以 上

《ご参考》

セグメント別業績

【売上高】

(単位：億円)

	2007年度予想	2010年度計画	増減率
機械	750	1,090	45.3%
産業機械	165	190	15.2%
開発機械(ロケット <sup>®</sup> リル)	371	550	48.2%
ユニック	214	350	63.6%
金属	965	755	△21.8%
電子化成品	154	195	26.6%
電子	90	125	38.9%
化成品	64	70	9.4%
不動産	27	27	0.0%
燃料・その他	244	233	△4.5%
合計	2,140	2,300	7.5%

【営業利益】

(単位：億円)

	2007年度予想	2010年度計画	増減率
機械	70	105	50.0%
産業機械	8	14	75.0%
開発機械(ロケット <sup>®</sup> リル)	39	58	48.7%
ユニック	23	33	43.5%
金属	56	15	△73.2%
電子化成品	17	23	35.3%
電子	12	18	50.0%
化成品	5	5	0.0%
不動産	7	7	0.0%
燃料・その他	△7	0	—
合計	143	150	4.9%

〔前提条件〕

	2007年度予想	2010年度計画
為替 (USドル)	116円/ドル	105円/ドル
為替 (ユーロ)	161円/ユーロ	155円/ユーロ
銅 価	7,409 <sup>ドル</sup> /トン	6,500 <sup>ドル</sup> /トン

以上

(注) この資料に記載されている予想数値は、経済状況、業界動向、為替レート、その他業績に与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした予想を前提としており、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値とは異なる可能性があります。